

日本語概説Ⅱ

2 units (selection) 2nd-year(2nd semester)

Mitsuaki Senba · PROFESSOR / DEPARTMENT OF CIVIL AND ENVIRONMENTAL STUDIES

Target) 古代から近現代までの日本語にどのような変化が、なぜ起こったのかについて、基本的なことがらを理解する。

Outline) 古代から近世までの日本語に関して、日本語史・言語変化の観点から重要と思われる話題を選び、なぜそのような変化が生じたのか、そのことがどのような方法で明らかにできるのか、ひとつの変化が他の面にどのような影響を与えるのか、といったことを見てゆく。

Keyword) 上代特殊仮名遣、仮名、ハ行転呼音、連体形終止法、係り結び

Notice) 教科書を利用するが、教科書に書かれた順番で授業を進めるのではない。あらかじめ指定するところは必ず予習することが望ましい。また、国語科の教職免許を取得したい学生は、必ず受講すること。(受講生数および構成によっては、進め方を変更することがある。)

Goal) 日本語史上の重要なトピックを理解し、言語変化を科学的に考える態度を養う。

Schedule)

1. 文献以前の日本語 (日本語の系統など)
2. 古代日本語 1:奈良時代(「上代特殊仮名遣い」と呼ばれる現象)
3. 古代日本語 2:奈良時代 2(母音体系と文法体系他の関係)
4. 古代日本語 3:平安前期(平仮名・片仮名の誕生、いろは歌)
5. 古代日本語から近代日本語へ 1(ハ行子音の変遷)
6. 古代日本語から近代日本語へ 2(ハ行子音の変遷の影響 仮名遣いの発生)
7. 古代日本語から近代日本語へ 3(定家仮名遣いとアクセント)
8. 古代日本語から近代日本語へ 4(「音便」とは何だったか)
9. 古代日本語から近代日本語へ 5(活用体系の変遷)
10. 古代日本語から近代日本語へ 6(連体形終止法の確立)
11. 古代日本語から近代日本語へ 7(係り結びの消滅 1)
12. 古代日本語から近代日本語へ 8(係り結びの消滅 2)
13. 古代日本語から近代日本語へ 9(助動詞の衰退 1 推量の助動詞)
14. 古代日本語から近代日本語へ 10(助動詞の衰退 2 時の助動詞)
15. 試験
16. 補足など

Evaluation Criteria) 平常点 40%、試験 60%の割合で評価する。平常点には、出席状況だけでなく、何回かの小テスト(または中間テスト)を含む。

Re-evaluation) 再試験またはレポート

Textbook) 沖森卓也編『日本語史』(おうふう)1900円を予定。

Reference) 『日本語の歴史』(1~7巻)平凡社ほか、随時紹介する。

Contents) <http://cms.db.tokushima-u.ac.jp/cgi-bin/toURL?EID=218914>

Contact)

⇒ Senba (2319, +81-88-656-7117, senba@ias.tokushima-u.ac.jp) MAIL